

長生きを喜べる長寿社会の実現

～生きがいのある高齢者を増やす～



公益財団法人長寿科学振興財団
The Japan Foundation for Aging and Health



Challenge
Ai
Technology
Outreach
Mission

© TEZUKA PRODUCTIONS

長寿科学の振興を通じ、生きがいがあり、 長生きを喜べる長寿社会を実現してまいります。

理事長あいさつ



大島 伸一

理事長を務めることになり、皆様方に御挨拶を申し上げますとともに、あらためて、長寿科学振興財団に求められるもの、私の役割とは何かについて考えてみました。当財団が発足したのは平成元年で、ナショナルセンターである国立長寿医療センター(当時)の設立を想定して、それを支援するための財団として設立されたものと理解しています。

来るべき高齢社会に向け、どのような問題・課題が生じるのか、それに対しどのように対応してゆけばよいのか、国としてすでに準備を進めていたものであり、現在の日本、世界の状況を考えると、諸先輩方の慧眼に驚かされます。六番目のナショナルセンターとして国立長寿医療センターが設立されたのは平成16年で、常陸宮殿下妃殿下、厚生労働大臣、愛知県知事らをお迎えして開設記念式典が催されました。初代の総長として選任された私が、当財団と深く関係するようになったのはこの時からです。

国立長寿医療センターは、平成22年に独立行政法人となりましたが、今でも国立の名称が残っているように、国民のためにというセンターの使命は変わらず、政策医療への提言などを主要な使命としていることには変わりはありません。因みに、現在の正式の名称は、平成27年から国立研究開発法人国立長寿医療研究センターとなっています。ナショナルセンターの独立行政

法人化とともに、財団と国立長寿医療研究センターの関係は法的には変わりましたが、両者が協力して高齢問題に取り組むという使命や目的は変わっていないと考えています。

すさまじい勢いで高齢化の進んでいる我が国で、財団に求められていることは何か。認知症とかフレイルなど、老化とともに進展する人の肉体的、精神的変化をはじめ、高齢者が増えることにより生ずる社会の変化、生活の変化にどう対応してゆけばよいのか、人類が経験したことがなく、どこにも答えのないこれらの問いにどう財団は立ち向かえばよいのか。

東日本大震災や豪雨による水害等では、多くの高齢者が亡くなりました。高齢になれば虚弱化するといえればそれまでですが、自力で生活できないという意味では、高齢者よりも乳幼児の方がはっきりしています。乳幼児の場合は、親と共に生活していることもありますが、親が必死になって守ります。老々・独居が当たり前の居住形態では、高齢者を守るのはますます難しくなるでしょう。

また、新型コロナウイルス感染症の流行でも死者で圧倒的に多いのは高齢者です。諸外国ではICU等での救命機器の使用の優先度を決めなくてはならないなどといった事態まで生じているようですが、そのような時に高年齢という要因がどのように評価されるのか。高齢者にとって安全で住みやすい高齢社会とはどんな社会なんだろうかと考えざるを得ません。

私は「長生きを喜べる社会」という言葉が好きでこれまでも何度も使わせてもらっていますが、この言葉は、小泉元首相が二期目の所信表明演説で使用された言葉です。小泉首相は「長生きを喜べる社会」とはどんな社会なのか、その時もその後も詳しく触れることなく政権を終え、私には不満でしたが、実際にはその答えは当時も今も誰も解っていないというのが正解でしょう。

日本に生まれ育ち、そして老い死んでゆく、より多くの方が人生を終えるときに、いろいろあったが「長生きしてよかった」と言えるような社会とはどんな社会なのか。当財団がその答えの一端でも示すことに貢献できればと思っています。よろしくお願い申し上げます。

長寿科学

長寿科学は、長生きを喜べる長寿社会づくりの基盤となる学問です。

老化メカニズム(人はなぜ老いるのか)の解明、高齢者特有の疾病の原因解明と予防・診断・治療、さらに高齢者の社会的・心理的問題の研究等、高齢者や長寿社会に関し、自然科学から人文社会科学に至るまでの幅広い分野を総合的・学際的に研究する学問を「長寿科学」と呼びます。

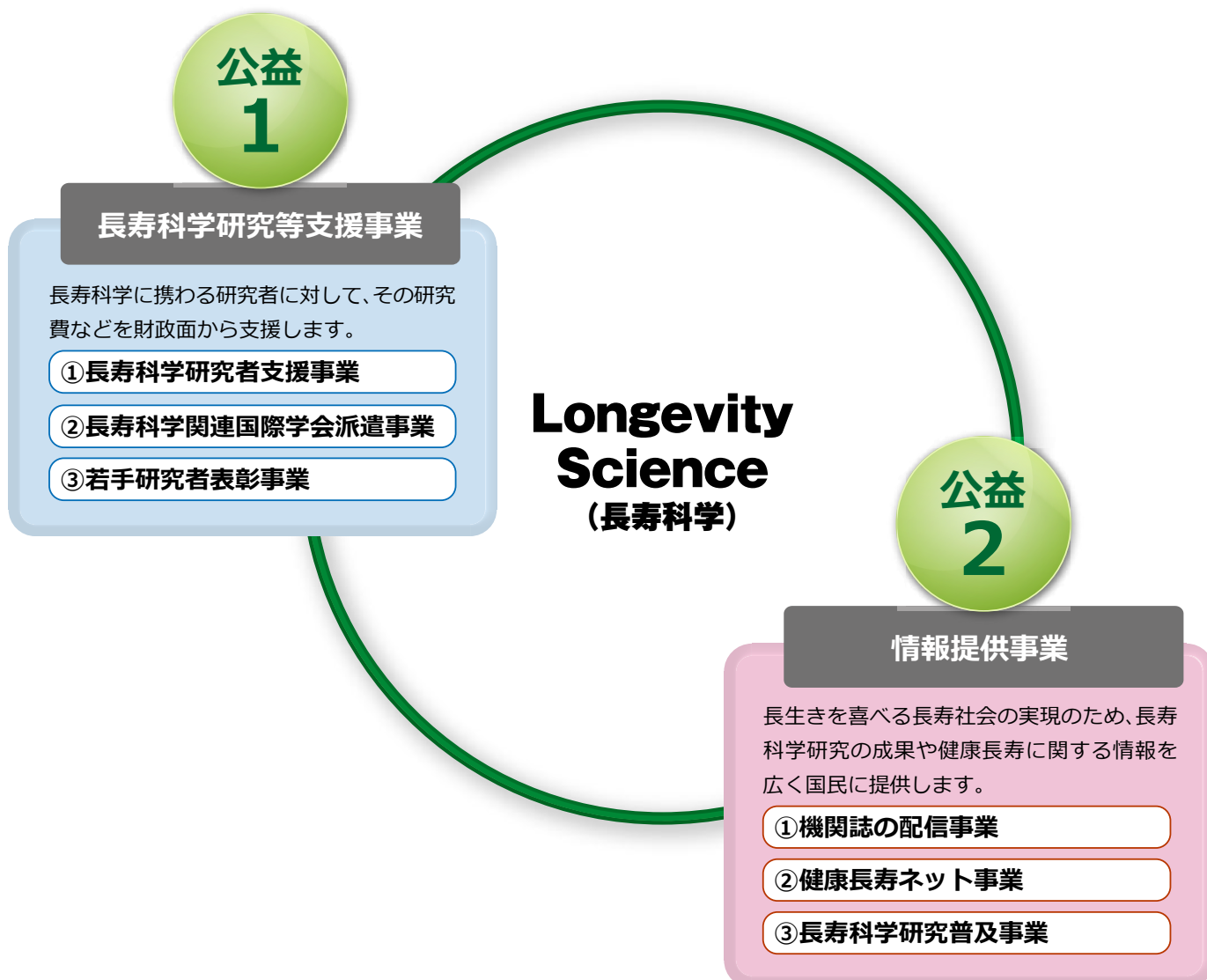
財団ビジョン

長生きを喜べる長寿社会の実現～生きがいのある高齢者を増やす～

当財団では、長生きを喜べる・生きがいのある人生とするための課題解決となる研究開発・社会実装を行い、政策提言に向けた事業を実施します。人生100年時代において、ひとりひとりが最期まで生きがいのある心豊かな人生を送ることができる社会の実現を目指します。

事業

財団ビジョン実現のため、長寿科学に関する2つの公益事業(研究の助長奨励・研究成果の普及)を展開しています。



① 長寿科学研究者支援事業

● 長生きを喜べる長寿社会実現研究支援

財団ビジョン「長生きを喜べる長寿社会の実現～生きがいのある高齢者を増やす～」を実現するため、これを主課題として掲げ、その実現のために課題解決となる基礎的な研究から本格的な社会実装まで取り組める課題解決型のプロジェクトを支援し、採択します。確実に社会実装し、持続可能な事業化を重視するとともに、社会貢献、地域貢献となるプロジェクトを支援します。



主課題 長生きを喜べる長寿社会の実現 ～生きがいのある高齢者を増やす～

キーワード

- ① 高齢者のQOL・生きがい・健康・活力のエンパワメント
- ② 弱っても安心して生き生き過ごせるまちづくり
- ③ 認知機能が低下しても個人の尊厳を尊重した普段の生活における様々な意思決定支援
- ④ 高齢者にやさしいテクノロジー・デジタル技術の開発・実装



事業運営 イメージ

本事業は多様な段階から開始するプロジェクトを支援するため、AからCの3つの分類を設けています。プロジェクトは毎年継続の審査があり、確実に社会実装し、持続可能な事業化を重視するとともに社会貢献、地域貢献となるプロジェクトを求めています。提案時には、AからCの分類の中でプロジェクトを開始する段階を選択してください。本事業は審査評価委員会が、審査・採択を行います。また、採択後は審査評価委員会からの助言等を通じ、プロジェクトを実施する皆様と伴走しながらプロジェクトの目標達成を目指します。

A 探索研究

課題解決方法のアイデアの実現性・実用化が可能かどうか検証を目的とする

年間上限1,000万円
最長2年間

B 実装研究

課題解決方法を実験的に実装・検証を進め、事業化の準備を目的とする

年間上限1,000万円
最長2年間

C 社会実装

事業を本格的に進め、持続可能な仕組みの確立を目的とする

年間上限1,000万円
(助成率は総事業費の3分の1まで)
最長2年間

それぞれの分類で求める最低限の成果

課題解決方法の
試作版の完成

課題解決方法の
正式版の完成
外部資金の調達の実現

持続可能な事業の
仕組みの確立

令和7年度採択プロジェクト

■エビデンスに基づく認知症予防プログラムの社会実装 ～高齢者のQOL向上と持続可能なコミュニティ支援の確立～

- プロジェクト代表者: 櫻井 孝(国立長寿医療研究センター研究所長特任補佐)
- 採択分野: 実装研究(3年間) ●助成額: 9,000万円(予定)



エビデンスに基づいた実装版認知症予防プログラムを通じて、高齢者のQOL・認知機能を向上させる。

プログラムが地域コミュニティに根付くための持続可能な運営体制を構築し、地域全体の健康と福祉を改善させるとともに、認知症の社会的コストの削減を目指しています。



認知症予防プログラムの有効性・費用対効果の検証

■地域版J-MINT Brain Healthプログラム(週1回、1回90分)

 認知トレーニング ✓ 全員で行う認知トレーニング ✓ 頭と体を使って行う二重課題運動 1回 25分	 運動プログラム ✓ 音楽に合わせたエアロビクスダンス ✓ 筋力トレーニング ✓ バランストレーニング 1回 45分	 講話・グループワーク ✓ 認知症予防のために必要な知識を学ぶ ✓ 目標設定や実践に向けた意見交換 1回 20分	 生活ノートによるセルフモニタリング ✓ 普段の生活習慣を生活ノートに記録 ✓ インストラクターからのフィードバックを行う
---	---	---	---



令和8年度採択プロジェクト

■社会的処方に対応できる伝統宗教施設 (寺社・教会等の協力による長寿社会実現のための地域支援研究)

- プロジェクト代表者: 枝広 あや子
(東京都健康長寿医療センター自立促進と精神保健研究チーム専門副部長)
- 採択分野: 探索研究(2年間) ●助成総額: 2,000万円(予定)



現代の日本は、高齢化に伴うさまざまな課題に直面しています。制度で充分に対応しきれない課題に対し、私たちは「長い歴史と伝統をもち、人々の苦悩に寄り添ってきた地域の社会構造」として、伝統的宗教施設に注目します。例えば、読経行為には精神的健康だけでなく口腔咽頭機能の向上に寄与する可能性が示されています。また、寺院という場で同様の課題を抱える人々が対話を行うことには、ピアサポートとしての効果があることも報告されています。このように、宗教的側面とは一定の距離を保ちつつ、人々の健康を支える活動としてこれらの取り組みを全国に展開していくことで、より強靱でしなやかな共生社会の実現を目指します。

● 高齢社会課題解決研究(AI)への助成

Googleの慈善事業部門であるGoogle.orgの寄附を受け、AI搭載のロボットによるアシスタンスやコンパニオンシップなど、超高齢社会における人工知能の変革の可能性を活用するために、高齢者のAIリテラシーを強化し、若者との有意義な世代間学習を促進することに焦点を当てた包括的な戦略を実施します。また、学生が、高齢者の課題を解決するAIロボティクス開発を促進するコンテストを開催します。

with support from
Google.org



/// 課題①：高齢者向けAIリテラシーの向上 ///

■ 高齢者のAI・ロボット親和性を醸成する共創型 AIリテラシー教育モデルの開発と全国実装に関する研究

- プロジェクト代表者：加藤 健治
(国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター 特任主任研究員
名城大学 理工学部 メカトロニクス工学科 准教授)
- 助成期間：2年間 ●助成総額：1億4,000万円(予定)



本プロジェクトでは、高齢者がAIやロボットを安心して理解し、日常生活の中で活用できる社会を目指します。生成AIや対話型ロボットが急速に広がる一方で、「使い方がわからない」「自分には難しい」と感じる高齢者も少なくありません。そこで本プロジェクトでは、お笑いやユーモアの要素を取り入れた体験型のAIリテラシー教育コンテンツを開発します。また、対話型ロボットなども活用しながら、高齢者が楽しく参加し、AIへの親しみや信頼感を育める学習環境を整えます。本プロジェクトを通じて、誰もがAIを身近な生活の支えとして活用できる、安心で包摂的な長寿社会の実現を目指します。

/// 課題②：世代間学習の促進 ///

■ iCoRP:世代間共創ラピッドプロトタイピング 【世代間学習を活用した人間中心AI設計の実践】

- プロジェクト代表者：梶田 尚亨
(情報経営イノベーション専門職大学 情報経営イノベーション学部 教授)
- 助成期間：2年間 ●助成総額：1億円(予定)



本プロジェクトは、高齢者と若者イノベーターが世代間学習により、高齢者のニーズを反映した高齢者向けAIアプリ/サービスのプロトタイプ開発を加速するiCoRP(Intergenerational Co-creation Rapid Prototyping)モデルの検証、実践を行います。

本プロジェクトは、学習(基礎)、学習(対話)、共創セッションの3段階の世代間学習、ビジネスプランコンテストで構成され、共創セッションでは高齢者を共同デザイナーと位置付け、若者イノベーターとともに上記プロトタイプ開発を行います。そして助成期間内にiCoRPモデルのパッケージ化を行い、その事業化と社会実装に向けた基盤構築を目指します。

/// 課題③：Challenge ATOM ～フィジカルAI プロジェクト ///

高齢者や高齢社会の課題を高専生・大学生・大学院生がAIロボティクスを使って「高齢社会の課題を解決するためのフィジカルAI」を創出するコンテストです。



②長寿科学関連国際学会派遣事業

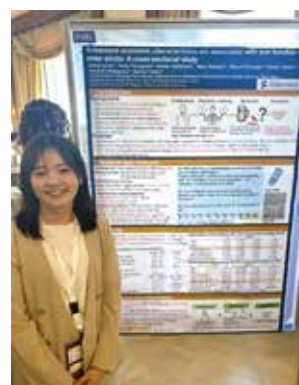
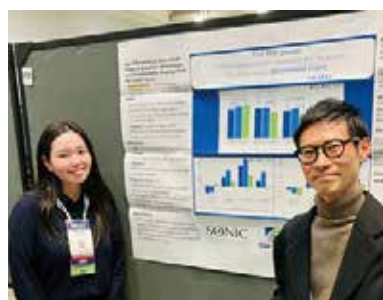
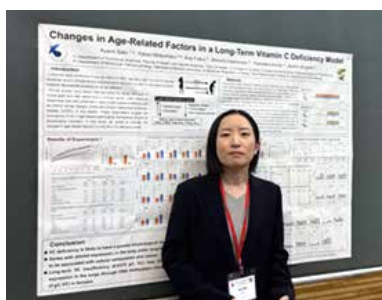
長寿科学研究に携わる若手研究者の育成を目的に、優れた研究成果をあげた若手研究者又は有望な研究を行う若手研究者に、海外で開催される関連する学会に参加するため(1人20万円 10人程度)助成します。



令和7年度派遣学会(開催都市)

(学会開催順)

- 世界変形性関節症研究会議2025(大韓民国 仁川)
- アメリカ老化学会第53 回大会(アメリカ アンカレッジ)
- European Society for swallowing Disorders 2025 15th Annual Congress(ギリシャ アテネ)
- Asian Conference for Frailty and Sarcopenia(台湾 高雄)
- Gerontological Society of America (GSA) 2025 Annual Scientific Meeting(アメリカ ボストン)
- 13th Asian-Pacific Conference on Biomechanics(ニュージーランド オークランド)
- Orthopaedic Research Society 2026 Annual Meeting(アメリカ合衆国 シャーロット)



③若手研究者表彰事業

長寿科学研究に携わる若手研究者の研究活動を幅広く支援することにより若手研究者の育成と長寿科学の振興を図ることを目的として、優れた研究成果をあげた研究者を選考のうえ、「長寿科学賞」を贈呈するとともに、副賞として研究費(100万円)を交付します。日本老年学会を構成する7学会に依頼し、各学会から選考・推薦された若手研究者を表彰します。



令和8年度受賞者

- 佐藤 迪夫 (日本老年医学会・熊本大学)
- 豊島 彩 (日本老年社会学会・島根大学)
- 伊藤 尚基 (日本基礎老化学会・国立長寿医療研究センター)
- 竹内 研時 (日本老年歯科医学会・東北大学)
- 杉山 京 (日本ケアマネジメント学会・大阪公立大学)
- 高岡茉奈美 (日本老年看護学会・千葉大学)
- 溝神 文博 (日本老年薬学会・国立長寿医療研究センター)

①機関誌の配信事業

WEB版機関誌「Aging&Health(エイジングアンドヘルス)」を財団ホームページと健康長寿ネットにて年に4回(春・夏・秋・冬)配信しています。令和8年度は117号～120号を公開予定。



機関誌の主な内容

●特集

長寿に関わる研究について専門家が分かりやすく解説

「テーマ」

117号:フレイル対策の現在

118号:認知症ユニバーサル・コミュニティの実現－NCGG-Unicoプロジェクト－

119号:高齢期における睡眠障害とケア

120号:エンドオブライフ・ケアと在宅医療(ケア)

●インタビュー

ご高齢になっても活躍されている著名人へのインタビュー

90歳のYouTuberを始め、92歳、栄養学者の方など毎号いつまでもお元気で、いまでも現役の方の人生にスポットを当てて紹介

●理事長対談

各界のキーパーソンと大島理事長が人生100年時代を迎え、一人ひとりが生きがいを持って暮らし、長生きを喜べる社会の実現に向けてどのようなことが重要かを考える

●ルポ

地域の鼓動 各地域で高齢者に関わる取り組みを紹介

現場の人々の想いや工夫など地域で暮らす高齢者を支える温かな取り組みを紹介

●最新研究情報

国内外の新しい長寿科学に関する研究について専門家が分かりやすく端的に紹介

●エッセイ

様々な分野の専門家によるエッセイを連載(全4回)

「令和8年度」

香山 リカ(むかわ町国民健康保険穂別診療所 副所長)

山崎 亮(studio-L代表、関西学院大学 建築学部 教授)



②健康長寿ネット事業

厚生労働省の助成を受けて、高齢期を前向きに生活するために必要な情報を提供し、日本の健康長寿社会の発展に貢献する目的で作られたWEBサイトです。疾病、老化、介護予防や健康づくりなど、健康長寿に関する情報を提供しています。



 **健康長寿ネット** <https://www.tyojyu.or.jp/net>



WEBサイトの主なコンテンツ(内容)

- **健康長寿とは** 自分でできる健康長寿のための情報について
- **高齢者の病気** 高齢者に多い病気・症状について
- **高齢者を支える制度とサービス** 介護保険制度や利用できるサービスなどを紹介
- **インタビュー・対談・特集・研究情報** 機関誌で取り上げた記事を紹介
- **エッセイ** 機関誌で取り上げたエッセイに加え健康長寿ネットだけの連載エッセイを掲載



健康長寿ネット よく読まれている記事 (令和7年度実績)

- カリウムの働きと1日の摂取量
- ビタミンDの働きと1日の摂取量
- 亜鉛の働きと1日の摂取量
- 貧血予防に良い食事・食べ物・調理方法とは
- フレイルとは
- 水は1日どれくらい飲めば良いか

③長寿科学研究普及事業

国立研究開発法人国立長寿医療研究センターとの連携により、毎年テーマを定め、長寿科学研究に関する国際シンポジウムを開催します。また、当財団が支援した研究成果を機動的に広く国民に普及・啓発します。



長寿科学振興財団の設立

政府は、平成元年12月に「高齢者保健福祉推進十か年戦略(ゴールドプラン)」を打ち出しました。この十か年戦略において、かねてより昭和天皇御長寿御在位60年慶祝事業の一環として検討されていた「国立長寿医療研究センター」の設置及び「長寿科学振興財団」の設立推進の方針が決定され、同年、当財団が設立されました。

●高齢者保健福祉推進十か年戦略(抜粋)「6 長寿科学研究推進十か年事業」

- (1) 研究基盤充実のための国立長寿医療研究センターを設置するとともに、長寿科学研究を支援する財団を設立する。
- (2) 基礎分野から予防法・治療法の開発、看護・介護分野、更に社会科学分野までの総合的な長寿科学に関するプロジェクト研究を実施する。
- (3) これらにあわせて、将来の高齢化社会を担う児童が健やかに生まれ、育つための施策を推進することとし、とりわけ、生涯の健康の基礎となる母子保健医療対策の一層の充実について中長期的視野に立って検討する。

ロゴマークの由来



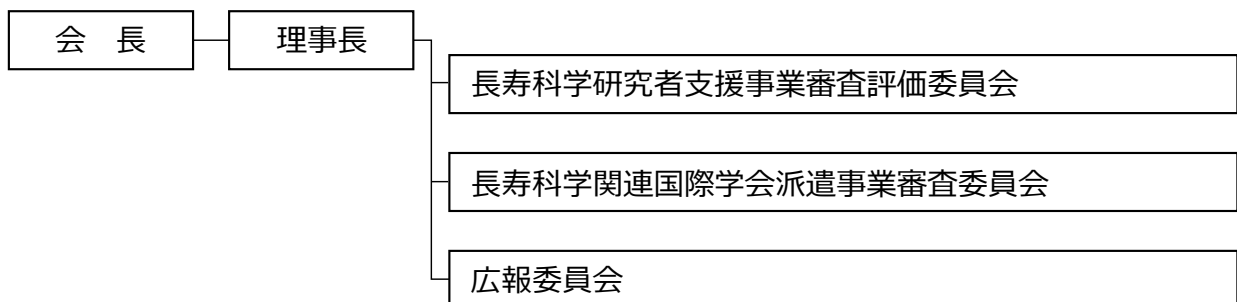
当財団は、昭和天皇御長寿御在位60年慶祝事業の一つとして設立されました。また、昭和天皇の一周年祭にあたり、天皇陛下、皇太后陛下から、長寿科学研究推進に資する思し召しにより昭和天皇の御遺産から当財団に対して御下賜金が賜与されました。こうした経緯から、昭和天皇の宮中での御印が「若竹」でありましたことに因み、いつまでもみずみずしく若々しい心を象徴するものとして平成9年に作成されました。

組 織

●組織図



●推進体制



基本財産造成状況

令和8年3月31日現在(単位:千円)

御下賜金	一般募金	愛知県	財界等
100,000	186,763	2,100,000	2,074,339
基本財産合計 4,461,102			

治 革

平成元年12月	・政府は、長寿科学研究推進事業として、センターの設立・支援財団の設置等を決定 ・財団法人長寿科学振興財団設立 - 初代会長 鈴木 永二 - 初代理事長 佐分利 輝彦 就任 ・政府は「高齢者保健福祉推進十か年戦略」(ゴールドプラン)を策定
平成2年1月	・昭和天皇1周年祭に当たり、天皇・皇太后両陛下より昭和天皇の御遺産から御下賜金の賜与
平成2年4月	・長寿科学研究センター創設準備室発足
平成6年12月	・政府は、現行の「高齢者保健福祉推進十か年戦略」を全面的に見直し「新ゴールドプラン」を策定して、高齢者の介護対策の更なる充実を図ることとした
平成7年6月	・二代会長 永野 健 就任
平成7年7月	・長寿医療研究センター運営開始
平成9年10月	・財団本部を、あいち健康の森健康科学総合センター内へ移転 ・旧本部は、東京事務所に組織変更
平成10年10月	・財団設立10周年記念式典挙行
平成11年12月	・政府は、高齢者保健福祉施策の一層の充実を図るため、「ゴールドプラン21」を新たに策定
平成12年1月	・二代理事長 大谷 藤郎 就任
平成12年3月	・国民的アイドルであった故成田さんさんの御遺族より、小淵総理大臣を通して御寄附を受納
平成13年4月	・三代会長 奥田 碩 就任 ・天皇陛下より、香淳皇后の御遺産から御下賜金の賜与 ・政府は、「メディカル・フロンティア戦略」をスタート
平成15年10月	・三代理事長 小林 秀資 就任
平成16年3月	・高度専門医療センター(ナショナルセンター)として、国立長寿医療センター開設
平成17年4月	・「健康メディカル・フロンティア戦略」がスタート
平成18年6月	・四代会長 柴田 昌治 就任
平成19年4月	・「新健康フロンティア戦略」がスタート
平成22年3月	・四代理事長 祖父江 逸郎 就任
平成22年6月	・五代会長 渡辺 捷昭 就任
平成23年3月	・東京事務所を本部へ統合
平成23年4月	・公益財団法人へ移行
平成27年1月	・「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～(新オレンジプラン)」策定
平成28年6月	・「ニッポン一億総活躍プラン」閣議決定
平成29年1月	・日本老年学会、日本老年医学会 高齢者の定義を「75歳以上」に見直す提言
令和元年12月	・財団設立30周年記念式典挙行
令和2年7月	・第五代理事長 大島 伸一 就任 ・名誉理事長 祖父江 逸郎 就任
令和3年4月	・高齢者雇用安定法の改定(70歳までの就業機会の確保)
令和5年6月	・「認知症基本法」の成立(認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会(=共生社会)の実現を推進)

評議員名簿

令和8年6月29日現在

(50音順)

秋山弘子	東京大学 名誉教授
大熊由紀子	国際医療福祉大学大学院 教授
大輪芳裕	公益社団法人愛知県医師会 会長
伍藤忠春	社会福祉法人全国心身障害児福祉財団 理事長
鳥羽研二	東京都健康長寿医療センター 名誉理事長
藤宗和香	元最高検察庁 検事
本田麻由美	読売新聞東京本社 編集局医療福祉部 編集委員
樂木宏実	市立伊丹病院 病院事業管理者

(評議員 計8名)

役員名簿

令和8年6月29日現在

(50音順)

会長	非常勤	渡辺捷昭	公益財団法人長寿科学振興財団 会長
理事長	〃	大島伸一	国立長寿医療研究センター 名誉総長
理事	〃	荒井秀典	国立長寿医療研究センター 理事長
〃	〃	井口昭久	名古屋大学 名誉教授
〃	〃	井藤英喜	東京都健康長寿医療センター 名誉理事長
〃	〃	江澤和彦	公益社団法人日本医師会 常任理事
〃	〃	大内尉義	国家公務員共済組合連合会虎の門病院 名誉院長
〃	〃	加賀美幸子	千葉市男女共同参画センター 名誉館長
〃	〃	児玉善郎	日本福祉大学学園 参与
〃	〃	齋藤英彦	国立病院機構名古屋医療センター 名誉院長
〃	〃	佐藤真一	大阪大学 名誉教授
〃	〃	清水肇子	公益財団法人さわやか福祉財団 理事長
〃	〃	鈴木みづえ	浜松医科大学臨床看護学講座 特命研究教授
〃	〃	田代俊孝	仁愛大学 学長
〃	〃	辻哲夫	一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 理事長
〃	〃	濱口道成	先進的研究開発戦略センター(SCARDA) センター長
〃	〃	松本一年	愛知県半田保健所 所長
〃	〃	柳澤信夫	一般財団法人全日本労働福祉協会 会長
(理事 計18名)			
監事	非常勤	岩田義浩	大王製紙会社 社外取締役
〃	〃	水野智之	サカ工税理士法人 代表社員税理士
(監事 計2名)			

長寿科学関連の専門委員で構成する各委員会を設置し、公益目的事業を推進しています。

令和8年4月1日現在

長寿科学研究者支援事業審査評価委員会 委員名簿

委員長	駒村康平	慶應義塾大学経済学部 教授
副委員長	飯島勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構 機構長 未来ビジョン研究センター 教授
委員	秋下雅弘	東京都健康長寿医療センター 理事長
〃	阿久津靖子	一般社団法人日本次世代型先進高齢社会研究機構 代表理事
〃	鎌田実	一般財団法人日本自動車研究所 代表理事・研究所長 東京大学 名誉教授
〃	近藤克則	千葉大学予防医学センター 特任教授 一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 研究部長 京都大学 成長戦略本部 特任教授
〃	佐藤久恵	国際基督教大学 評議員
〃	長谷川友紀	東邦大学医学部 名誉教授
(委員 計8名)		

(委員 計8名)

高齢社会課題解決研究(AI)関連委員名簿

Google 高齢社会課題解決研究助成審査評価委員会

委員長	荒井秀典	国立長寿医療研究センター 理事長
副委員長	秋下雅弘	東京都健康長寿医療センター 理事長
委員	飯島勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構 機構長 未来ビジョン研究センター 教授
"	篠崎尚史	日光アカデミー 代表取締役
"	竹内一郎	名古屋大学大学院工学研究科 教授
"	室山哲也	日本科学技術ジャーナリスト会議 副会長

(委員 計6名)

構想委員会

委員長	荒井秀典	国立長寿医療研究センター 理事長
委員	秋下雅弘	東京都健康長寿医療センター 理事長
"	篠崎尚史	日光アカデミー 代表取締役
アドバイザー	大島一博	元厚生労働省事務次官
"	松尾泰樹	木原記念横浜生命科学振興財団 理事長

(委員 計3名)

(アドバイザー 計2名)

小委員会①

委員長	竹内一郎	名古屋大学大学院工学研究科 教授
委員	白川展之	新潟大学 准教授
"	白松俊	名古屋工業大学 教授

(委員 計3名)

小委員会②

委員長	飯島勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構 機構長 未来ビジョン研究センター 教授
委員	藤原佳典	東京都健康長寿医療センター研究所副所長

(委員 計2名)

小委員会③

委員長	室山哲也	日本科学技術ジャーナリスト会議 副会長
副委員長	近藤和泉	東京都健康長寿医療センター センター長特任補佐
委員	飯野奈津子	医療福祉ジャーナリスト
"	伊藤秀樹	株式会社エクシング XING INC
"	加藤昇平	名古屋工業大学 教授
"	長岡輝	株式会社MIXI
"	長谷川泰久	名古屋大学未来社会創造機構 教授

(委員 計7名)

長寿科学関連国際学会派遣事業審査委員会 委員名簿

委員長	荒井秀典	国立長寿医療研究センター 理事長
副委員長	秋下雅弘	東京都健康長寿医療センター 理事長
委員	李相侖	認知症介護研究・研修大府センター 研究部長
"	石神昭人	東京都健康長寿医療センター研究所 副所長
"	上田貴之	東京歯科大学 老年歯科補綴学講座 教授
"	亀井美和子	帝京平成大学 薬学部 部長
"	真田弘美	石川県立看護大学 学長

(委員 計7名)

広報委員会 委員名簿

委員長	井藤英喜	東京都健康長寿医療研究センター 名誉理事長
副委員長	鳥羽研二	東京都健康長寿医療研究センター 名誉理事長
委員	飯島勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構 機構長 未来ビジョン研究センター 教授
"	飯野奈津子	医療福祉ジャーナリスト
"	櫻井孝	国立長寿医療研究センター 研究所長特任補佐
"	佐藤真一	大阪大学 名誉教授
"	柳澤信夫	全日本労働福祉協会 会長

(委員 計7名)

ご寄附のお願い

当財団では皆様から頂いたご寄附を基本財産として積み立て、運用することで得られた利息を原資とし、財団ビジョン「長生きを喜べる長寿社会の実現～生きがいのある高齢者を増やす～」の実現のため事業活動を行っています。

皆様からの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

なお、ご芳名を当財団ホームページ及びWEB版機関誌Aging & Healthでご紹介させていただいております。

寄附の運用で支えられている事業の実績

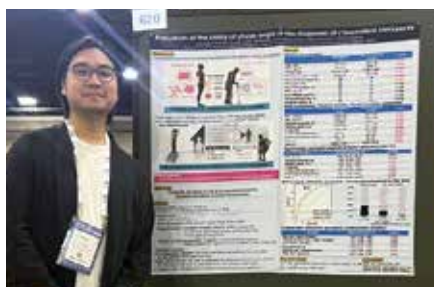
- 長寿科学研究に携わる研究者の育成と長寿科学の振興を図ることを目的に、長寿科学に貢献できるすべての分野の活動を幅広く支援しました。
→ これまでに171件 6億8,926万円を助成しました。
- 長寿科学研究に携わる若手研究者の育成を目的に、海外で開催される関連学会で研究成果を発表するための渡航費を支援しました。
→ これまでに127名 総額3,013万円を助成しました。
- 長寿科学研究において優れた研究成果をあげた若手研究者を表彰しました。
→ これまでに74名を表彰しました。
- 健康長寿情報や長寿科学研究成果を分かりやすく情報提供します。
年に4回機関誌を公開(通算116号)
- ウェブサイト「健康長寿ネット」の運営(約1,800の記事を掲載)
- 指定寄附金として目的を達成するため、下記の指定研究事業に活用しました。
J-COSMIC事業(平成15年度～21年度)
アテンプト研究事業(平成21年度～令和2年度)
高齢社会課題解決研究および社会実装活動への助成(令和5年度～7年度)
高齢社会課題解決研究(AI)への助成(令和8年度～)

「高齢社会課題解決研究および社会実装活動への助成」
「高齢社会課題解決研究(AI)への助成」は以下の団体からの支援により実現しています。

with support from **Google.org**



長寿科学に携わる若手研究者の育成と長寿科学の振興を図ることを目的として、優れた研究成果をあげた研究者を表彰します。



長寿科学研究に携わる若手研究者の育成を目的に、国内で優れた研究成果をあげた若手研究者を海外で開催される学会において研究成果を発表するための渡航費を助成。



財団ビジョン「長生きを喜べる長寿社会の実現～生きがいのある高齢者を増やす～」を実現するため、課題解決となる探索研究・実装研究・社会実装を目的としたプロジェクトを支援します。

ご寄附の方法

次の3つの方法からお選びください

●銀行振込〈寄附金振込先口座〉

金融機関：三菱UFJ銀行(0005) 大府支店(344)

種別：普通預金 口座番号：1762379

口座名義：公益財団法人長寿科学振興財団 基本財産受入口 理事長 大島伸一

●郵便振替用紙(振込手数料不要)

当パンフレットに貼付の「郵便振替用紙」(振込手数料不要)をご利用下さい。

ご不明な点などございましたら下記までご連絡下さい。

《連絡先》総務企画課 TEL:0562-84-5411 FAX:0562-84-5414 E-mail:soumu@tyojyu.or.jp

●つながる募金



SoftBankのスマホから
ご利用料金とまとめて寄付



どなたでも可能
クレジットカードで寄付

 つながる募金

当財団は所得税法(所得税関係)、法人税法(法人税関係)および租税特別措置法(相続税関係)上の「特定公益増進法人」です。当財団への寄附金は、寄附金控除、損金算入等についての税法上の特典が受けられます。個人様・法人様いずれの場合も、優遇措置を受けるためには確定申告が必要となります。確定申告の際は、当財団が発行する領収書の提示が必要となります。

令和8年度財団パンフレット表紙

東京都町田市北部の丘陵にある竹林です。以前は荒れ果て、うっそうとしていた竹林がHATARAKU認知症ネットワーク町田の竹林再生活動により、人々の集う場としてよみがえりました。この活動は、認知症のある方々と地域住民が力を合わせて整備活動に取り組んでいて、「認知症だから」と区別されることなく一人ひとりの得意なことや経験が生かされ、自然な交流が育まれています。

機関誌『Aging&Health』の取材で出会ったこの風景は、誰もが地域の一員として支え合い、活躍できる共生社会の姿を映し出しています。活動に込められた思いや歩みについて、詳しくは財団機関誌『Aging&Health(2026年第35巻第2号)』をご覧ください。



Aging&Health
(2026年第35巻第2号)



写真提供：HATARAKU認知症ネットワーク町田 事務局 高橋 祐司さん





公益財団法人長寿科学振興財団

The Japan Foundation for Aging and Health

日本の高齢社会における重要な課題に取り組む研究および社会実装プロジェクトを支援するため、助成プログラムを立ち上げました。

with support from

Google.org

所在地



〈アクセス〉

- ・ＪＲ名古屋駅からＪＲ東海道線(上り)「大府駅」下車
- ・ＪＲ大府駅西口から知多バス大府線・大府循環線乗車
- ・「あいち健康プラザ」下車

〒470-2101

愛知県知多郡東浦町大字森岡字源吾山1-1
あいち健康の森健康科学総合センター 4F
(あいち健康プラザ内)

TEL:0562-84-5411 FAX:0562-84-5414

E-mail:soumu@tyojyu.or.jp



公益財団法人長寿科学振興財団

令和8年度版